第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ハヤブサ

Falco peregrinus japonensis Gmelin, 1788

金井裕（公益財団法人日本野鳥の会）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：金井裕，2026．ハヤブサ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 753-758．

Citation: Kanai, Y., 2026. *Falco peregrinus japonensis* Gmelin, 1788. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 753-758.

ハヤブサ目 Falconiformes　ハヤブサ科 Falconidae

ハヤブサ

***Falco peregrinus japonensis* Gmelin, 1788**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　②

基準 A:　VU 未満	基準 B:　VU 未満	基準 C:　―	基準 D:　VU 未満	基準 E:　―

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
②生息条件が悪化している。
【判断理由】
関東地方の一部では、ロッククライミング等のレジャーの影響による営巣放棄と思われる事例が確認されており、その他の地域でも同様の影響が指摘されている。現状これらの多くの行為に規制はなく、今後も影響が継続すると予測される。
また、近年は高病原性鳥インフルエンザの野鳥への感染事例が国内で急増している。ハヤブサは、猛禽類の中では鳥インフルエンザの感染数が最も多い種であることから、鳥インフルエンザによる本種への悪影響が懸念される。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

北海道から九州まで留鳥として生息するほか、ロシア極東、朝鮮半島、中国南東部にかけて分布する。国内では主に海岸や河川流域などの開けた環境にある断崖や岩場で営巣し、中・小型の鳥類を空中で捕食する。1950～70 年代に有機塩素系農薬の影響で激減した可能性があるが、個体数は回復してきていると思われる。営巣地の崖と障害物のない開けた採餌場所の確保や、中・小型鳥類の保全に留意すれば、個体群の安定が図れるであろう。

基礎情報

【形態】

全長はオスが 38～44 cm、メスが 46～51 cm、翼長はオスが 32～33 cm、メスが 36～37 cm で、雌雄のサイズに大きな差が見られる。成鳥は雌雄ともに上面は青灰色、下面は白または生成り色で、黒い横斑がある。一方、幼鳥は上面は褐色、下面は薄茶色で、太い褐色の縦斑が目立つ。目の下の頬にはハヤブサの特徴を示す、所謂「ハヤブサヒゲ」があるが、幼鳥のヒゲは褐色で、成鳥の黒色に近いヒゲほどコントラストは強くない。目の周りの露出部、嘴の付根の蝋膜、足は成鳥は濃い黄色だが、幼鳥は青味がかった灰色である。翼は細長く、先端が尖っているので、飛翔時には、成鳥・幼鳥ともに体色や大きさが似通っているオオタカ（*Accipiter gentilis*）との識別点になる。

【生活史】

一夫一妻制で、生息に適した場所に通年、縄張りを占有し、2 月頃から求愛飛行などの繁殖行動を始める。3～4 月に縄張り内の断崖や岩場のオーバーハングした岩棚や穴に、巣を造らずに直に 3～4 個の卵を産む。抱卵は主にメスが担当し、雛は 5 週間程度で孵化するが、孵化後しばらくの間は体温調節ができないために、2 週間ほどはメスが引続き抱雛する。6 週間前後で巣立ちを迎えるが、巣立った後も、2 ヶ月ほどは親の縄張り内に留まり、独り立ちできるまでは親から給餌を受ける。中・小型の鳥類を高速で飛行して捕食するので、障害物のない開けた採餌空間と、営巣場所として捕食者が近づき難い断崖や岩場が生息に不可欠である。こうした生息条件を満たす環境は極めて限られているので、個体数や生息密度は低い。

【生息環境】

主に海岸や河川流域などの開けた環境にある断崖や岩場に生息するが、冬期には越冬個体などが中・小型の鳥類が集まる河口や河川流域、湖沼付近を狩場として高頻度で利用する。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】草地 【陸域_平地部 海岸部】田地・畑地，砂地・礫地，河川中流域，河川下流域，河口域，農業用水路，海崖・岩浜・岩礁（磯）
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域

【分布域】

種ハヤブサ（*Falco peregrinus*）は南極大陸や一部の島嶼（ニュージーランドやアイスランドなど）を除き、全世界に分布する。本亜種は国内は北海道から九州まで留鳥として生息するほか、ロシア極東、朝鮮半島、中国南東部にかけて分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

分布域に大きな変動は見られないが、近年、個体数の回復に伴い、これまで生息が確認

されていなかった地域で、個体の目撃や生息事例が増えている。都市部への進出事例も少数見られる。「自然環境保全基礎調査全国鳥類繁殖分布調査報告 2016-2021 年」では、1974－78 年には繁殖確認メッシュ数 6、繁殖可能性のあるメッシュ数が 10 の合計 16 メッシュであったものが、2016－2021 では繁殖確認メッシュ数 54、繁殖可能性のあるメッシュ数が 39 の合計 93 メッシュと大きく増加している。また、河川水辺の国勢調査のダム湖調査においては、繁殖期に記録があったダム湖が 1 巡目（1990 年度－1995 年度）において 3 か所だったものが 5 巡目（2011 年度－2015 年度）では 17 か所と増えている。ダム湖調査では、繁殖期以外の渡り時期や越冬期を含む生息記録率も、1 巡目調査の約 15%だったものが、5 巡目では 55%と増加している。

【生息地の現況】

本亜種の生息条件を満たす環境はもともと限られているが、道路や漁港建設などに伴う落石防止措置等やレジャー活動（ロッククライミング、ハンググライダー、釣り、野鳥の写真撮影など）により、営巣可能な崖や岩場が利用できなくなっている地域がある。

【個体数の現況】

種ハヤブサは 1950～70 年代に DDT などの有機塩素系農薬により世界的に個体数が激減した。日本では本亜種の農薬汚染や個体数の変動に関する調査が行われていないので、詳細は不明だが、1951 年に水田で死亡していた個体が採集されており（千葉県小岩）、本亜種も減少していた可能性は高い。しかし、2000 年代に入り、これまで生息や繁殖が確認されていなかった地域で、個体の目撃や生息の事例が増えていることから、個体数は回復してきていると思われる。

存続を脅かす要因

河川開発、海岸開発、道路建設、レジャー活動（ロッククライミング、ハンググライダー、釣り、野鳥の写真撮影など）による営巣地の消失や生息・繁殖の妨害、また、湿地開発、草地開発、送電線や風力発電施設の建設による採餌条件の悪化は、本亜種に悪影響を及ぼす。さらに、鳥インフルエンザに感染していた死亡事例が多数報告され、多くの未確認の死亡数が想定されるため感染症の影響も懸念される。

要因の区分：	（過去）	河川開発，海岸開発，湿地開発，草地開発，交通インフラ建設，感染症/病原菌，その他（レジャー活動による営巣地の消失や生息・繁殖の妨害）
	（現在）	河川開発，海岸開発，湿地開発，草地開発，交通インフラ建設，感染症/病原菌，その他（レジャー活動による営巣地の消失や生息・繁殖の妨害）

特記事項

個体数は回復してきていると思われるが、生息条件を満たす環境がもともと限られているので、それほど大きな個体数の増加は期待できない。一方、食物連鎖の頂点に立ち、環

境変化の影響を受けやすい存在なので、長期に渡るモニタリングを行えば、環境の健全さを示す指標としての役割を担える。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第４次 2019：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第４次 2018：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第４次 2017：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第４次 2015：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第４次：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第３次：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第２次：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	VU
第１次：	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】絶滅危惧Ⅱ類(Vu),【青森県】重要希少野生生物(B ランク),【岩手県】絶滅危惧Ⅰ類,【秋田県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【山形県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【福島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【茨城県】絶滅危惧Ⅱ類,【栃木県】絶滅危惧Ⅱ類(B ランク),【群馬県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【埼玉県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(越),【千葉県】最重要保護生物(A),【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【東京都（北多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【東京都（南多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【東京都（伊豆諸島）】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類(繁殖期)、希少種(非繁殖期),【新潟県】準絶滅危惧(NT),【富山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【石川県】準絶滅危惧(NT),【福井県】県域絶滅危惧Ⅱ類,【山梨県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【長野県】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【岐阜県】準絶滅危惧,【静岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(繁殖),準絶滅危惧(NT)(越冬),【三重県】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【滋賀県】希少種,【京都府】絶滅危惧種,【兵庫県】B ランク,【奈良県】希少種,【和歌山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【鳥取県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【岡山県】絶滅危惧Ⅱ類,【広島県】準絶滅危惧(NT),【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【徳島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【香川県】準絶滅危惧(NT),【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【高知県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【佐賀県】絶滅危惧Ⅰ類種,【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【熊本県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【宮崎県】準絶滅危惧(NT-r),【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類,【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法

参考文献

- Cade, T. J., J. H. Enderson, C. G. Thelander and C. M. White (eds.), 1988. Peregrine Falcon Population. pp. 949. The Peregrine Fund, Inc. Boise, Idaho.
- 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部，2006．泉大津ハヤブサ・レポート 2006．p. 40．泉大津市．
- 河川環境データベース（河川水辺の国勢調査），国土交通省．https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html
- 御手洗望・山口孝，2018．多摩川流域(東京都域)における絶滅危惧種ハヤブサの生態に関する調査研究．東急財団一般研究 No.239．
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男，1995．図鑑日本のワシタカ類．文一総合出版，東京．631pp.
- 日本鳥類目録編集委員会，2024．日本鳥類目録改訂第 8 版．日本鳥学会，東京．506pp.
- 日本野鳥の会，1996．平成 7 年度希少野生動植物種生息状況調査報告書．pp. 89．環境庁，東京．
- Sielicki, J. and T. Mizera (eds.), 2009. Peregrine Falcon Population. pp. 800. Turul Robert Zmuda, Warszawa, Poland.
- 東京都環境局自然環境部，2023．東京都レッドデータブック（本土部）2023．東京都．488pp.
- 植田睦之・植村慎吾，2021．自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年．176pp. 鳥類繁殖分布調査会，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Falco peregrinus japonensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Falco peregrinus japonensis* is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】Farmland, Sandy area/Gravelly area, Middle river basin, Lower river basin, Estuary, Agricultural ditch, Sea Cliff/Rocky beach/Reef
Threat types:	River development, Coastal development, Wetland development, Grassland development, Transportation infrastructure construction, Disease, Other
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	金井裕（公益財団法人日本野鳥の会）
Author:	Yutaka Kanai

公表年月：2026 年 3 月